

- 問1 万葉集の編纂に深く関わったとされる人物は誰ですか。この人物自身の歌も多く収録されており、また和歌集全体としては、柿本人麻呂が現在の香川県坂出市に立ち寄って詠んだ歌など、全国各地を舞台とした作品が収められています。 (2020年 鳥取公立入試 類似)
1. 大伴家持
  2. 紀貫之
  3. 藤原定家
  4. 山上憶良
- 問2 律令時代の税制のうち、成人男性に課され、都での労役の代わりに布を納める「庸」や、各地の特産品を納める「調」とは異なり、土地（口分田）を対象として課せられた税について述べた文として正しいものはどれですか。 (2021年 山口公立入試 類似)
1. 収穫した稲の約3パーセントを、地方の役所に納める。
  2. 都へ赴いて10日間の労働を行う代わりに、布を納める。
  3. 繊維製品や水産物などの各地の特産品を、都まで運んで納める。
  4. 年間60日を限度として、地方の役所での土木工事などの労働に従事する。
- 問3 律令国家が農民に「口分田」を与えた主な目的と仕組みの説明として、最も適切なものはどれか。 (2025年 静岡公立入試 類似)
1. 戸籍に基づいて土地を分け与え、その収穫から一定の税を確実に徴収するため。
  2. 農民の私有地を認め、さらに開墾した土地を永久に所有させるため。
  3. 地方の豪族が所有していた土地を、農民が買い取れるようにするため。
  4. 貴族や寺社の勢力を強めるために、広大な土地の管理を農民に委託するため。
- 問4 古代日本の律令国家において、戸籍に登録された6歳以上の人々に、生きている間だけ一定の面積の田（口分田）を分け与え、死後は国に返還させた制度を何といいますか。 (2015年 長野県公立入試 類似)
1. 班田収授法
  2. 太閤検地
  3. 地租改正
  4. 公地公民の制
- 問5 古代の日本において、戸籍に登録された成年男子には兵役の義務が課せられていました。この制度に基づき、唐や新羅など大陸からの侵攻に備える目的で、九州北部の警備にあたった兵士の名称を選びなさい。 (2025年 岐阜公立入試 類似)
1. 防人（さきもり）
  2. 屯田兵（とんでんへい）
  3. 健児（こんでい）
  4. 衛士（えじ）
- 問6 奈良の正倉院に収められている「螺鈿紫檀五絃琵琶（らでんしたんのごげんびわ）」には、熱帯アジアを原産とする紫檀という木材が使われ、砂漠を歩くラクダの装飾が施されています。このような特徴を持つ宝物が日本に存在する歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。
  2. 聖徳太子が派遣した遣隋使が、インドや西アジアの諸国と直接的な外交関係を樹立し、それらの国々から直接輸入したものである。
  3. 当時の日本は西アジア諸国と大規模な直接貿易を行っており、主に海路を通じてこれらの豪華な楽器が大量に輸入された。
  4. 唐が周辺諸国との交流を遮断していたため、日本は朝鮮半島の新羅を経由してのみ、間接的に西アジアの文化を取り入れていた。
- 問7 律令時代の地方行政制度において、地方を統治するために設置された行政区分の名称とその読み方の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
1. 最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「郡（こおり）」、末端に「里（り）」を置いた。
  2. 最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「里（さと）」、末端に「郡（むら）」を置いた。
  3. 最も広い範囲を「道（どう）」、その下に「府（ふ）」、末端に「県（あがた）」を置いた。
  4. 最も広い範囲を「藩（はん）」、その下に「郡（ぐん）」、末端に「村（そん）」を置いた。
- 問8 奈良時代に編纂された「風土記」の記述内容として、当時の政府が地方を管理する上で重視した視点に当てはまらないものはどれですか。 (2017年 岐阜公立入試 類似)
1. その土地が農業に適しているかなどの肥沃の状態
  2. 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史
  3. その土地で得られる動植物や鉱物などの産物の種類
  4. 地名の由来や、古くからその地域に伝わっている伝説
- 問9 聖武天皇の時代に、当初は政府から弾圧されていた僧侶の行基が、後に高い位を与えられて大仏の造立に協力することになった理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 佐賀公立入試 類似)
1. 民衆の間で大きな影響力を持っており、大規模な工事に必要な人手や資金を集める役割を期待されたから
  2. 遣唐使として唐に渡り、最新の建築技術や土木技術を日本に初めて持ち帰った功績が認められたから
  3. 地方の国府や国分寺の周辺で発生した反乱を、仏教の教えを用いて鎮圧することに成功したから
  4. 鎌倉時代に新仏教を興した開祖たちと同様に、厳しい修行を通じて国家の安泰を祈願したから
- 問10 8世紀前半、聖武天皇の時代に都の平城京を中心に栄えた、仏教と唐の文化の影響を強く受けた国際的な文化を何といいますか。 (2022年 岐阜公立入試 類似)
1. 天平文化
  2. 飛鳥文化
  3. 国風文化
  4. 弘仁・貞観文化
- 問11 奈良時代、相次ぐ反乱や疫病の流行などの社会不安を取り除くため、聖武天皇が「仏教の力で国を治め、守る」という考えに基づき、東大寺に大仏を建立しました。このような当時の政治思想を何といいますか。 (2018年 三重公立入試 類似)
1. 鎮護国家
  2. 浄土信仰
  3. 神仏習合
  4. 末法思想
- 問12 墾田永年私財法の制定が、その後の社会に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 沖縄公立入試 類似)
1. すべての土地と人民を天皇が直接支配する公地公民の制度がより厳格になった。
  2. 貴族や寺社が財力を背景に大規模な開墾を行い、荘園と呼ばれる私有地が形成されるようになった。
  3. 6歳以上の男女に口分田を与え、死後は国に返還させる班田収授法が全国で初めて実施された。
  4. 豊田秀吉によって全国の土地の広さや質が調査され、土地の所有者が確定した。
- 問13 律令時代の税制について述べた次の文のうち、当時の農民にとって「都までの輸送」という大きな負担を伴った税の説明として正しいものを選びなさい。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. 収穫した稲の約3%を地方の国衙にある倉庫に納めるもの
  2. 京での労働のかわりに、布を都へ納めるもの
  3. 各地の特産物である絹や糸、布などを都へ直接納めるもの
  4. 地方の国司のもとで、1年間に60日を限度に労働を行うもの
- 問14 律令制度下の税制において、都の跡から出土した木簡（荷札）には、アワビやサバ、塩といった全国各地の特産物が記されていました。このように、土地の産物を中央政府に納めることが義務付けられた税を何と呼びますか。 (2022年 広島公立入試 類似)
1. 租
  2. 庸
  3. 調
  4. 雑徭

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 大伴家持	万葉集は長い年月をかけて歌が収集されましたが、最終的なまとめ役として大伴家持が重要な役割を果たしたと考えられています。柿本人麻呂などの宮廷歌人から地方の歌まで幅広く収録されている点が、後の時代の天皇の命令によって編纂された「勅撰和歌集」とは異なる大きな特色です。選択肢の紀貫之は平安時代の『古今和歌集』、藤原定家は鎌倉時代の『新古今和歌集』の編纂者として知られています。
問2	答え 1 収穫した稲の約3パーセントを、地方の役所に納める。	「租」は他の税と異なり、人に対してではなく「土地（口分田）」に対して課せられる性格を持っていました。また、庸や調が都まで運んで納めなければならない負担の重い税であったのに対し、租は収穫した稲をその地域の役所に納める形式がとられていました。選択肢にある労役の代納は「庸」、特産品の納入は「調」、地方での労働は「雑徭」の説明です。
問3	答え 1 戸籍に基づいて土地を分け与え、その収穫から一定の税を確実に徴収するため。	律令国家は、戸籍を作成することで人民の数と構成を把握し、それに基づき口分田を配分しました。これによって、農民に納税（租）の義務を負わせ、国家を運営するための財源を安定的に確保しようとしたのです。
問4	答え 1 班田収授法	大化の改新から律令国家の成立にかけて整備された土地制度です。すべての土地と人民は国家のものとする「公地公民」の原則に基づき、国民に生活の基盤となる田を与える一方で、そこから「租」などの税を徴収することを目的としていました。
問5	答え 1 防人（さきもり）	律令国家の軍事制度において、九州北部の太宰府を中心に、対外防衛のために配置された兵士です。主に東国の農民が徴兵されましたが、九州までの旅費や食費、武器などは自己負担であったため、農民にとって極めて重い負担となりました。なお、屯田兵は明治時代に北海道の警備と開拓にあたった兵士を指します。
問6	答え 1 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。	奈良時代の日本は遣唐使を派遣し、当時世界の中心の一つであった唐（中国）の文化を積極的に取り入れました。唐はシルクロードを通じて西アジアやインドと盛んに交流していたため、それらの地域の文化や物産が唐に集まっていました。日本は唐を経由することで、間接的に遠く離れた西アジアやインドの国際色豊かな文化（天平文化）を享受することができたのです。遣隋使による直接輸入や、当時の日本が西アジアと直接海路貿易を行っていたという事実は確認されていません。
問7	答え 1 最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「郡（こおり）」、末端に「里（り）」を置いた。	大宝律令などに基づき、全国は「国（くに）」、その下の「郡（こおり）」、さらにその下の「里（り）」という単位で編成されました。国には国司、郡には郡司が置かれ支配が行われました。
問8	答え 2 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史	風土記はあくまで地方ごとの自然環境や文化、資源を記録した「地理書」としての性格を持っています。天皇の系譜や国家の成り立ちといった公式な歴史をまとめたものは「古事記」や「日本書紀」であり、地方の状況を報告させる目的で作成された風土記とはその役割が区別されています。
問9	答え 1 民衆の間で大きな影響力を持っており、大規模な工事に必要な人手や資金を集める役割を期待されたから	聖武天皇は仏教の力で国を安定させようと大仏の造立を計画しましたが、それには膨大な労働力と寄付（資金）が必要でした。政府は、かつては弾圧していたものの、民衆から絶大な支持を受け、橋やため池の建設を指揮していた行基の協力なしには、この国家的な大事業を完遂できないと判断して彼を重用しました。
問10	答え 1 天平文化	奈良時代の代表的な文化で、遣唐使によってもたらされた唐の文化や仏教が深く結びついています。国際色が豊かであることが特徴であり、聖武天皇の時代にその最盛期を迎えました。
問11	答え 1 鎮護国家	聖武天皇は、天然痘の流行や政治的混乱が続く中、仏教の力によって国家の安泰を図ろうとしました。この思想を「鎮護国家」と呼び、これに基づいて全国に国分寺・国分尼寺が建立され、その総本山として都の平城京に東大寺が、そしてその本尊として大仏が造立されました。
問12	答え 2 貴族や寺社が財力を背景に大規模な開墾を行い、荘園と呼ばれる私有地が形成されるようになった。	墾田永年私財法の制定により、開墾した土地の永代私有が認められると、豊かな経済力を持つ中央の貴族や大寺社は、農民や浮浪者を利用して盛んに土地を切り開きました。こうして成立した大規模な私有地は荘園と呼ばれ、律令国家が理想とした公地公民制を崩壊させる要因となりました。
問13	答え 3 各地の特産物である絹や糸、布などを都へ直接納めるもの	「調」は地方の特産物を納める税であり、労役の代わりに布を納める「庸」とともに、都まで運搬して納める義務がありました。当時の交通事情では、これらを都へ運ぶための食料なども農民自身が負担する必要があったため、生活を圧迫する非常に重い負担となりました。一方で、収穫した稲を納める「租」は地方で保管・運用されました。
問14	答え 3 調	律令制度では、農民の負担として複数の税が定められていました。土地の面積に応じて稲を納める「租」に対し、その土地の特産物（海産物や繊維製品など）を都まで運んで納める税を「調」といいます。都の跡から見つかった木簡は、これらの品々が全国から集められ、貴族の食生活などを支えていたことを示す貴重な史料となっています。